

## 手拍子あり ♪ 笑顔あり # 涙あり ♪…のジャズライブ

一昨年5月の演奏から2年ぶり、6月4日（水）午後6時半から「Marta and the Bay Breeze Jazz Live」が外来ホールで開かれました。本格的なジャズの生演奏とあって、参加された患者さんは「気分がぱあ〜っと明るくなりました」「こんな機会はめったにないから、入院していて良かった!?すごく楽しかったです」「感動しました。楽しくって泣きました」と話されていました。

演奏メンバーは来日38年のマルタさんがボーカル、ベースの浦辺さん、ドラムの阪本さん、埼玉から駆け付けたキーボードの高木さん、コンガのアデウォレさん、そしてコーディネーター&司会のアデウォレ・涼子さん、音響担当のジョージさんと7名によるユニット。ご主人のアデウォレさんがセンターの患者さんでもあり、演奏の合間に奥さまから「主人はがんから生還しました！」というお話がでると、患者さんから大きな拍手がわきました。



プログラムはジャズのスタンダードナンバー「アンフォゲッタブル」から始まり、「サマータイム」「スマイル」「ガール・フロム・イパネマ」「ルート66」「オーバー・ザ・レインボー」など全12曲。最初はおずおずと手拍子をしていた患者さんたちも、マルタさんに「スマイル〜！」と声をかけられ、演奏にひきこまれるうちに自然と体が動いていました。車椅子でお父さんに連れられてきたお嬢さんが、マルタさんに呼ばれてステージで「フライ・ミ

ィ・トゥ・ザ・ムーン」をマルタさんと手を繋いで聞く場面もあり、「音楽が好き。皆の前にいるときはちょっと緊張したけど、楽しかった」とのこと。スチューデント・ボランティアのカラーカラーズも4名参加して、プログラムの最後の曲「上を向いて歩こう」をマルタさんと一緒に歌いました。また会場の設営から患者さんの誘導、片づけまでと、大活躍してくれました。皆さん、ありがとうございました。 |

